

同推協だより

No.145号

2026年3月発行

神前地区同和教育推進協議会

Email:kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp



☆ 第31回 同推協のつどいが2月1日（日）に開催されました！

肌寒い冬晴れの朝でしたが多くの方に参加頂きました。

1年間の活動報告を自治会（尾平町）と団体（三滝中学校 PTA）の各1団体が発表しました。

○尾平町は特に懇談会の取り組みについて事前打ち合わせ等の取り組みからの報告があり、テーマの設定等の工夫が感じられました。今年度は参加者は従来より増えたが役員が中心であったので、今後は一般住民の方の参加を増やしたい、そのためには楽しい雰囲気話し合い、参加して良かったと思える様にするのが大切との話がありました。このことは参加者が懇談会の場でいかに本音で自分の意見を話すことができたか？又他の人の意見を真剣に聞けたか？ということになるかと思えます。



尾平町の報告の様子

○三滝中学校 PTA の活動報告は年間の活動

（委員会や学習会）内容を中心に報告されました（9月12月以外毎月開催）

同推委員としての活動（研修会や懇談会への参加）で、差別や偏見が日常や身近にも存在していることに気づく機会となり、「知らなかったことを知る」「自分の考えを見直す」学びのきっかけになりました。ただPTA 会員全体や家庭、子どもたちの日常にまで広げていくことが今後の課題であること、学びを行動につなげ、差別を許さない人権を尊重する姿勢を日常の中で実践できる様継続した取り組みを進めると発表がありました。

現在のこの考えを維持していただき、子どもたちにも伝われば地域の人権意識は確実に向上し、明るく差別のない安全安心のまち『かんざき』づくりが出来ると思いました。



三滝中学校 PTA の報告の様子

この一年間同推協の活動に参加しての振り返り

☆今年度の研修会・懇談会やつどいに参加したこども園 PTA さんが参加していない方にも知って欲しいこととして、投稿していただきました。

無意識の思い込みに気づく ～アンコンシャスバイアス～

私たちは、知らないうちに「思い込み」をしていることがあります。

例えば・・・ *歳だから新しいことはむずかしい。

*男のひとは力仕事。 *若い人はスマートフォンが得意。

こうした気づきにくい思い込みを「アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）」といいます。これは特別なことではなく、だれにでもあります。これまでの経験や体験から自然に身についた考え方だからです。けれどもそれから発した言葉で他の人を傷つけてしまうことがあります。「もしかしたら今の考えは思い込みかもしれない」そう心にとめてみませんか。そんなちいさな気づきが、あたたかい地域づくりにつながると私は思っています。



☆地域の活動と同推協の活動について思うこと。 (同推協の啓発委員)

数年前からある企業が週 1 回のゴミ拾い、数か月に 1 回会社の行事活動の紹介や方針をチラシでポストに入れてもらっています。真夏・真冬など本当に感謝でした。チラシには自分にとって、何の役にも立たない内容も多いですがし中には自分にとって大変生活に役立つ内容も含まれていました。

同推協の活動を多くの人前で暗に否定する人、関わりたくないと思う人、無関心な人などいろんな人がいます。上記の企業の様にいろんな事を発信して少しでも人の心を、近寄せる同推協活動としたい。狭い視野での思い込み偏見等で知らぬ間に差別をしてしまっている事に、気づける様に生活し視野を広げたい。

ウマくいきますように！

☆来年度の活動に向けて思うこと (研修啓発部員)

各自治会・団体とのコミュニケーションの時間を増やし、夏の啓発委員研修・懇談会を開催したいと考えています。具体的には懇談会前の打合せを共にしていけたらと思っています。



★記憶に留め行動に結びつけて欲しいこと (本部役員)

最近よく DEI という言葉をめにします。D はダイバーシティで個人の属性（人種、国籍、宗教、性別、性的志向、障がいの有無等）の多様性を尊重することです。E はエクイティで公平に機会が提供されることを表します。I はインクルージョンで誰もが個性と能力を十分発揮できるよう多様な価値観を受け入れ認め合うことです。企業などでは組織の力を高め進化させていく基盤として重要視されていますが、地域社会においても住民の皆さんが安心して暮らすことのできる基礎となるもので大切にしたいものです。「DEI」を重視し、不当な差別を許さない社会をつくるために、何ができるかを考え行動につなげていきたいと思えます。

チョットだけ 一緒に考えて見ませんか!!

◎ 自分ごとで考える。

(広報部 近藤 記)

これは部落差別をはじめとする、あらゆる差別に対する取り組みの姿勢としてよく耳にする言葉です。しかし言葉は簡単ですが実際にそうすることは難しい。何故なら当事者の被差別の感情や実態の全てを理解することは出来ないからです。ただ出来ることはあります。なぜその差別が存在するのか？その差別をつくっている原因はなにか？を正しく知り学ぶことは出来ます、またそのことを真剣に考える。自分自身はどう思うか、どう行動すればよいかの、答えを見つけ行動することです。では今の自分に出来ているかと言えばNOです。自分自身に直接関わりのあることには注目するが、直面しないことには、真剣に考えさえもしていないことに、恥ずかしながら最近気づきました。それはアメリカ合衆国（以後米国）の日本に対する要求のエスカレートのニュースからです。高関税や約85兆円にもなる対米投資要求（使途は米国に決定権）や、防衛費の増額要求、辺野古基地の滑走路より長い代替滑走路が無ければ普天間基地の不返還発言更には日米地位協定の不改定等の現実があること、これは日本が未だ米国の占領下状態にある（戦後は終わっていない）ことではないか？首都圏で横田基地や横須賀基地、平塚基地等があり特に横田空域は米軍が強大な管理権を持つ「完全な専用管制空域」となっている（こんな国は日本以外無い）ことや日本国内には約130か所の米軍基地（施設・区域）が存在しその70%が沖縄県に集中し、県の面積の15%が米軍基地となっている、また地位協定により、米国軍人の犯罪者を日本国内法で即時拘束して調査出来ないことがあることなど、日米地位協定は運用改善程度で一度も改定されていないことも知りました。米国（トランプ政権）は日本を対共産圏（ロシア、中国、北朝鮮）の防波堤とし生かさず殺さずの属国の様に考えているようにも感じます。沖縄県の人が戦争中だけでなく今も苦しめられている現状に対して自分にも無関係とは言えないのに、他人様の様に過ごしてきた自分自身今更ですが情けない。また日本の将来にも不安を感じています。米軍の駐留が抑止力にならないことは、中国の軍事行動が示しています。私が子どもの頃日本は永世中立国を目指すとも教えられましたが、今現在米国に追従状態ゆえに、軍事的にも法外な代償を払うことになり兼ねないと危惧しています。いつも自分ごととして知ること学ぶこと・考えることを継続し小さな声を上げ続けたい。



同推協では来年度啓発委員（仲間として活動して頂く方）を募集しています！
【問い合わせ先】神前市民センター内 団体事務局 TEL・fax 327-1501(受付午後)
Email : kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp